

国 語

国語科においては、自分の考えを表現する力を育むことが課題です。そのため、定着に課題がある指導事項（資質・能力）を明確にして繰り返し学習すること、単元で取り上げる指導事項を指導するために適した言語活動を設定すること、ICTを効果的に活用して自分の考えを整理したり互いの考えを共有したりする場面を意図的・計画的に位置付けることが大切です。

I 目標の明確化や評価の充実のポイント

国語科では、指導内容を螺旋的・反復的に繰り返しながら資質・能力の定着を図ることを基本としていることから、1つの指導事項を年間で複数回繰り返し取り上げて指導します。そのため、年間を見通して単元の指導目標や単元の評価規準をバランスよく設定する必要があります。

これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、本道の児童は全ての領域において、自分の考えをもつことや考えを伝えることに課題が見られることから、「考えの形成」及び「共有」の指導事項を取り扱う単元を年間指導計画に重点的に位置付けるなどして、学校全体で系統性を意識した組織的な学習指導の改善・充実につなげていくことが大切です。

II 指導計画の改善のポイント

言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科では、言語活動を通して資質・能力を育成します。そのため、当該単元の指導事項を指導するためにどのような言語活動が適切であるかについて、教師自身が確かめる必要があります。その際、教師自身が言語活動を実際に行うことで、あらかじめ児童の学習状況を想定したり、評価のポイントを明確にしたりすることにつながります。

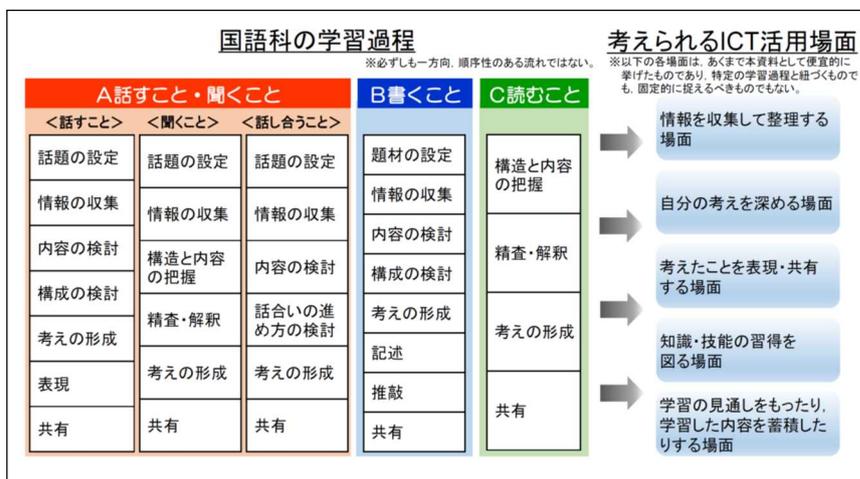
現在、本道の多くの学校において、言語活動を位置付けた学習活動が展開されるなど、国語科の授業改善が図られています。一方で、単元を通した言語活動が一方的な教師側からの提示によるものであることから、児童が「何のために学ぶのか」という目的意識をもてないまま学習に参加している様子も見られます。単元計画を立てる際には、これまでの学習や日常生活の経験を十分に踏まえて言語活動を設定するとともに、児童自身が学びを深めるための言語活動を選択、自己決定できるようにするなど、主体的な活動を意図することが大切です。

また、児童が主体的に学習を進めるためには、教師が言語活動に取り組んでいる児童の学習の過程や成果を評価し、その結果を児童にフィードバックして学習の改善を促したり、児童自身に学習の状況を捉えさせ、自らの学習の進め方を改善させたりする指導の充実を図ることが重要です。

III 手立ての充実のポイント

学習指導要領では、国語科の指導の改善・充実を図る観点から〔思考力・判断力・表現力等〕の各領域において学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けています。ICTの効果的な活用についても、この学習過程を踏まえて、活用場面を考えることが大切です。

具体的には、自分の考えを整理する際に、デジタルホワイトボードを用いて、付箋に書き出した考えを並び替える学習活動を取り入れたり、互いの考えを共有する際に、デジタルホワイトボードを用いて、仲間の考えを比較・分類する学習活動を取り入れたりするなど、ICTを効果的に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることが重要です。



【学習過程に応じて考えられるICT活用場面の例】

自分の考えを表現する力を育む計画の改善

<単元名>

「伝記を読んで、自分の生き方について考えたことを、仲間と交流し合おう」(第5・6学年) C 読むこと

<単元の目標>

- (1) 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)オ
- (2) 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

【Ⅰ 評価規準の設定】

- ・本単元では、C(1)オ「考えの形成」を重点化して指導する指導事項と位置付けており、他の評価規準との関連が十分に図られるよう意図している。

<単元の評価規準>

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|---|
| ①思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ | ①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) | ①進んで、人物像や物語などの全体像を具体的に想像し、学習課題に沿って、自分の考えを文章にまとめようとしている。 |

<単元の指導計画(8時間)>

| 学習過程 | 学習活動 | 評価規準・評価方法等 | 単元のデザイン |
|-----------------|--|--|---|
| 構造と内容の把握 (1) | <ul style="list-style-type: none"> ○これまでの読書活動を振り返り、伝記を読んだ感想や自分の考えを広げることなどに役立った経験を交流する。 ○「伝記を読んで、自分の生き方について考えたことを、仲間と交流し合おう」という単元の学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ○自分の生き方を考える際のキーワードを想起しながら本文を読み、初発の感想をグループで伝え合う。 | | <ul style="list-style-type: none"> 【Ⅱ 単元のデザイン】 ・単元全体を通して取り組む言語活動を設定している。(関連：C(2)イ) |
| 精査・解釈 | <ul style="list-style-type: none"> ○伝記の人物が、どのような人生を送ったかについて、西暦や年齢を手掛かりにして読み、行動や出来事について気付いたことを、デジタル付箋機能等を用いて整理し、グループで行動や出来事を端末上の年表にまとめる。 ○「思考に係る語句」に着目し、伝記の人物が「どのような考えで、行動を起こしたのか」についてグループで交流し、年表に書き加える。 | <ul style="list-style-type: none"> 【知・技①】 端末上の年表 ・思考に係る語句に着目し、語句と語句との関係などについて理解しているかの確認 | <ul style="list-style-type: none"> 【Ⅱ 学習の見通し】 ・児童がこれまでの読書活動や言語活動との関連を図り、自らの思いや経験値に合わせ、学習の見通しをもてるよう工夫している。 |
| 考えの形成 | <ul style="list-style-type: none"> ○伝記の人物の「言動」に対する筆者の考えを基に、伝記の人物と現在の自分との共通点や相違点を見付けたり比べたりしながら読み、自分の生き方について考えてみたいキーワードを設定し、その理由を書く。※ワークシート① | <ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表①】 年表・ワークシート② ・人物像や物語の全体像を想像し、表現の効果を考えているかの確認 | <ul style="list-style-type: none"> 【Ⅲ 1人1台端末の活用】 ・デジタル付箋機能の活用により、自分が気付いたことを、目的に応じて並べ替え、整理できるようにしている。 |
| 精査・解釈 | <ul style="list-style-type: none"> ○伝記の人物に関する自伝や書き手の違う複数の伝記、他の人物の伝記等を読み、ICTを用いて、人物像や物語などの全体像について多面的な視点で捉え直し、交流する。※ワークシート② | <ul style="list-style-type: none"> 【主①】 観察・ワークシート① ・人物像や物語などの全体像を具体的に想像し、自分の考えを文章にまとめようとしているかの確認 | <ul style="list-style-type: none"> 【Ⅲ 1人1台端末の活用】 ・ホワイトボード機能の活用により、お互いの考えを比較・分類し、共有できるよう工夫している。 |
| 考えの形成 (2～7) | <ul style="list-style-type: none"> ○キーワードを再考し、初発の感想との変化を踏まえながら、自分の生き方について考えたことを書く。※ワークシート① | <ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表②】 ワークシート① ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の生き方について考えたことをまとめているかの確認 | <ul style="list-style-type: none"> 【Ⅱ 学習過程の評価】 ・ワークシート①の評価を児童にフィードバックし、児童のつまづきに応じた指導を行っている。 |
| 共有 (8) | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをグループ内で発表し、感想を共有した後、単元で身に付けたこと、今後の学習や生活の中で生かしていきたいことなど、視点を明確にして振り返りシートに記入する。 | | <ul style="list-style-type: none"> 【Ⅰ 指導と評価の一体化】 ・単元全体の学習を通して、自分の変容を自覚し、身に付いた力を振り返ることができるようにしている。 |